

舘野 泉 左手のピアノコンサート

2020年9月19日(土)14:00 開演

那須町文化センター大ホール

入場料:3500円(当日券) 3000円(前売り券)

ゲスト出演:ヤンネ舘野(ヴァイオリン)

プログラム(予定):

バッハ(ブラームス編):シャコンヌ

スクリャービン:前奏曲と夜想曲 Op.9

coba:記憶樹

...休憩...

ヤンネ舘野と

谷川賢作:"スケッチ・オブ・ジャズ2" より3曲

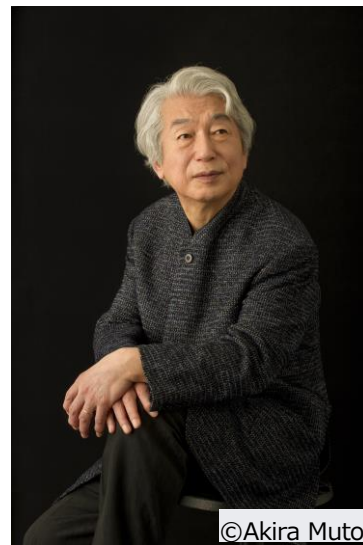
久保 禎:"5つの風景画"より

串木野さのさ 鹿児島ハンヤ節



ヤンネ舘野(ヴァイオリン)

フィンランド・ヘルシンキ生まれ。オーストラリアにてジュリアン・クイット、フィンランド・ヘルシンキ音楽院にてシルッカ・クーラ、オルガ・パルホメンコ、シカゴ芸術音楽学院にて森悠子の各氏に師事。現在横浜に在住し、日本各地にて室内楽、オーケストラ奏者、ソリストとしても活動。ヘルシンキを拠点とするラ・テンペスタ室内管弦楽団のコンサートマスター、音楽監督を努める他、山形交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者、森悠子主宰長岡京室内アンサンブルのメンバーとしても活躍している。



©Akira Muto

左手のピアニストとして活躍する舘野泉氏が、ついに那須に初お目見えます。軽やかさと力強さ、透明な音色と繊細で複雑な響き、舘野泉の左手が鍵盤から紡ぎ出す音楽は、表情豊かに聴き手を魅了します。

2002年フィンランドでのリサイタル中に脳出血で倒れ、65歳で右半身不随に。ピアニストとしての再起が危ぶまれましたが、2年後に「左手のピアニスト」として復帰。

復帰のきっかけは、ヴァイオリニストの長男、ヤンネが、ある日さりげなく置いていってくれた1枚の楽譜。英国の作曲家フランク・ブリッジの『左手のための三つのインプロヴィゼーション』。第一次世界大戦で右手を失った親友のピアニストのためにつくられた曲でした。「ここに自分がやれる音楽があると思った。左手だけでも十分に表現ができる、音楽と一体化できる。そのことに気がきました」(舘野氏)

80歳を超えた今も、精力的に新たな左手の音楽の地平を切り開いています。舘野氏曰く、「自分にとって、生きるとは音楽を弾くこと」「左手で弾き始めた頃、最初はとにかく面白くて、幸せしか感じなかった。音楽ができる、ただそれだけ。片手で演奏して不自由だと思ったことは一度もありません。」

